

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-2 自然とのふれあいの推進
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 鈴木岳明	電話番号	0852-22-5311
----------	-----------	------	--------------

事務事業の名称	穴道湖自然館管理運営事務		
目的	(1) 対象	一般来館者、一般県民	
	(2) 意図	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通して、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	
事業概要	一般住民に対して広く学習機会を提供するため、指定管理者制度により施設の管理運営を行う。 指定管理者制度の円滑な運営にあたり、管理者との連絡調整や協定に基づく県運営事項（老朽化した設備の更新や修繕等）を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	目標値		105,000.0	105,000.0	105,000.0	105,000.0	人
		取組目標値		110,000.0	110,000.0	110,000.0	110,000.0	
	式・定義	実績値	124,164.0	116,153.0				
		達成率	-	105.6				%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	111,615	110,801
うち一般財源 (千円)	110,094	109,078

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

指定管理者は、従来から仕様回数を超えた特別展の開催（3回）や、イベントの開催（夜間開館など館内での催しや館外イベントへの出展）、団体向けプログラムの実施（92回）などにより、魅力ある施設運営に努めている。

さらに、平成28年度は、今しか見られない生き物や話題の生き物をタイムリーで紹介するトピック展示の回数増加（30回）、リピーターの満足度向上に向けた年間パスポート所有者限定イベントの創設など、「今だけ、こだけ、あなただけ」のサービス提供を目指した創意工夫が行われた。

また、学校や公民館への講師派遣（17回）により、水辺の生き物に対する興味関心と学習意欲の高揚にも貢献している。

このような積極的な集客努力により、過去8年間で昨年度に次ぐ入館者が訪れた。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成26～27年度に「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」のリニューアル及び飼育設備改修工事を行ったことにより、集客施設としての魅力の増進と、長期的な維持保全に向けた設備改善がなされた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 集客施設としての魅力を支える展示に係る設備が陳腐化してきている。
- 指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための人員体制が十分ではない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」以外の展示設備は、平成13年度の開館当初から改修していない。
- 館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を拡げているが、対応できる職員数が限られている。

③原因を解消するための「課題」

- 来館者の多くを占めるリピーターの満足度向上を目指し、定期的に新鮮さを取り入れる必要がある。
- 限られた職員により一層の効率的な運営を図っていくとともに、職員のさらなるスキルアップを進めていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 今後の展示設備のあり方について、財団と連携しながら施設の整備や改修を検討していく。
- 平成29年5月に全国初のシラウオ周年展示に成功したことを受け、当面の対応としてシラウオの展示設備を新設して新しい価値を付加することで、来館者数の増加を図るとともに、指定管理者の希少生物保護の取組をPRする場として活用する。
- ゴビウスサポーター制度によるボランティアの育成と協働を推進し、長期的には専門知識・技術を持った人材育成を図る。
- 指定管理者が隣接地で運営する穴道湖グリーンパーク（鳥や昆虫の観察等）と一体となった情報発信を行い、両者が新鮮な話題を提供し続けることで相乗効果が生まれるよう取組を進める。
- 今後も親子で楽しめる展示をするための工夫を継続し、新しい試みを取り入れることでリピーターの増加を目指すとともに、子どもに対する学習機会の提供のため学校等の団体との連携強化を図る。